

世界史の

基本的な勉強法



まずは**世界史の勉強はどのように進めていくべきか**を説明していきます。旅に出る前に地図を見る感じですね。

世界史の勉強は、このように進んでいきます。

理解→暗記→仕上げ

単純明快でしょ？

でも、成績が伸びない人はどれかに穴があるのです。

「理解、暗記、仕上げとかそんなわかりきったこというな。」と思うかも知れませんが、そういう人ほど分かった気になった勉強や、

やった気になっているだけの勉強になっています。

それではひとつずつ解説していきます。もう勉強法で迷うのはおしまいです。頑張ってください。

理解・整理が超重要



「世界史は暗記」と多くの人は思い込んでいますが、半分合っていて、半分間違っています。

確かに世界史は暗記していないと、試験で困ってしまいます。暗記が必要なのは確かです。

ただし、暗記というのは**理解ありき**なのです。

暗記というと丸覚えのイメージが強く、それが「世界史は暗記」という解釈の間違いを呼んでいます。

「世界史は丸暗記すりゃ点取れる！」と思い込んでいる人が「世界史は暗記」とさげんでいるのが現状なんですね。

理解力があれば、暗記が楽になりますし、しっかり世界史のストーリーを理解していれば重要な年号以外の細かい年号の暗記は不要です。

理解するための勉強法

ここからは理解するための勉強法を詳しくお伝えします。

教科書は使うな

世界史の成績が伸び悩んでいるのなら、**この時点では教科書は使わないで下さい。**

表現が硬すぎて飲み込みづらいからです。この段階では、世界史の内容をかみ砕いて伝えてくれる参考書を使用します。

オススメするのは、**ナビゲーター世界史**です。内容がずっと入ってきます。別冊のチェックテストも魅力的です。

ただ、参考書には合う合わないがあるので、本屋に足を運んで本を手にとって自分の目で確かめるようにして下さい。

参考書でもちょっと難しいと感じるのならまずは漫画からいきましょう。さらっと読んで大筋をつかみます。

予備知識をつけるためなので何周もしなくて大丈夫ですよ。覚えよう覚えようではなく、こういう話なんだーという姿勢が良いです。

漫画で大筋がつかめたら、いよいよ参考書に入っていきます。

学校の授業は？

その前に、学校の授業はだめなの？という質問が上がってくると思います。

もちろん大丈夫ですし、授業は先生がポイントを押さえてくれるので、インプットの方法としては、効率がいいです。

ただし！

あなたが高校 3 年生であるか、難関校を志望している場合は学校の
授業に頼り切るのは辞めましょう。

勉強は独学が本来のあり方です。

授業は、補完のため、いわばサプリメントなので、授業に頼り切るのは
オススメしません。

予備校の授業やスタディサプリの授業を先行させ、しっかり理解、暗記をして、その後で学校の授業を復習として用いるのは OK ですよ。

参考書の使い方

さて、参考書を読んでいきましょう。

分からない部分は印をつけながら、

「なるほど、この人がこうしたから、この事件が起こったんだな」という風に、能動的に整理しながら読むというのがポイントです。因果関係をしっかり捉えて下さい。

あとで詳しく解説します。

一周が終わったら二周目に入ります。前回分からなかったところを重点的に、やはり**整理**を中心に読んでいきます。

分からないところがなくなり、一周するのが苦じゃないなと感じるようになったら、次の「暗記」パートに進みます。

ナビゲーターは4巻にわかれています。私は1巻ずつやっていくのをオススメしています。

4 巻すべてを一気にやろうとすると、周回がしづらくなるばかりか、最初の方に読んだ内容を忘れてしまうからです。

つまり、勉強の進め方としては、

1 巻の理解→1 巻の内容の暗記、2 巻の理解→2 巻の内容の暗記、3 巻の理解、1 巻の内容の復習...

という流れになりますね。

授業を活用する際のノートの取り方

予備校の授業やスタディサプリの授業を活用する場合は、ノートの取り方に気を付けましょう。

ノートに書き込むべきは以下の6つです。

- 1 授業内容(板書、先生が言ったこと)
- 2 知らなかった知識
- 3 わからなかったところ
- 4 授業の要点(授業の直後)

5 要約(授業後)

6 クイズ(授業中、授業後)

このようにノートをとると授業内容だけでなく、わからなかったところも明確になり、さらには自分で要点を絞ったり、要約したりクイズをつくることで、**アウトプットもできるようになっています。**

ノートのレイアウトは好きにしてもらっていいですが、ノートを開いたときに、左側のページに授業内容、右側のページに2~6を書くようにすると、広々使えて見やすいです。

私はこのやり方で大学の授業を受けましたが、テスト勉強をそこまで必死にやらなくても、テストの点数がすこぶるよかったのでお勧めです。

授業は先生が要点をおさえて話してくれるのでとても理解しやすいですが、理解しやすいが上に分かった気になり復習を怠りがちですので、授業を受けているときから、復習をしやすい工夫をしていくのがポイントですね。

要約が完了した後も、自分で作ったクイズを解いたり、要約を作り直しながら授業内容を思い出して、何度も復習しましょう。

読んだことを忘れないようにする術

参考書の話に戻しますと、

勉強の流れを説明してきましたが、読んでいく上で絶対にやってほしいことがいくつかあります。

これをやらないと「何周もやっているのに全然身につかない。」「説明しろって言われたらちょっと無理」という、勉強しているのに成績が上がらない状態に陥ります。

クイズを作る

読み進めながら、読んでいて気になったことや、どうして、なぜそうなったのかを中心に自分だけのクイズを作って下さい。

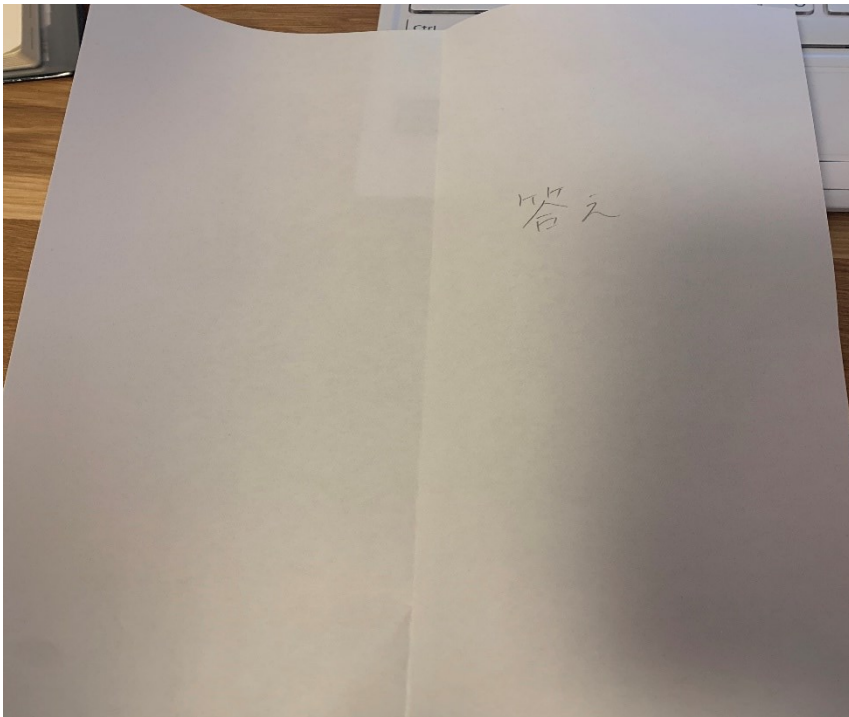
成績の上がる勉強法の根本は**アクティブラーニング**なのです。

しかし、これは学校は教えてくれません。だからこの冊子を手に入れたあなたは、他の受験生の前を走っていることになります。

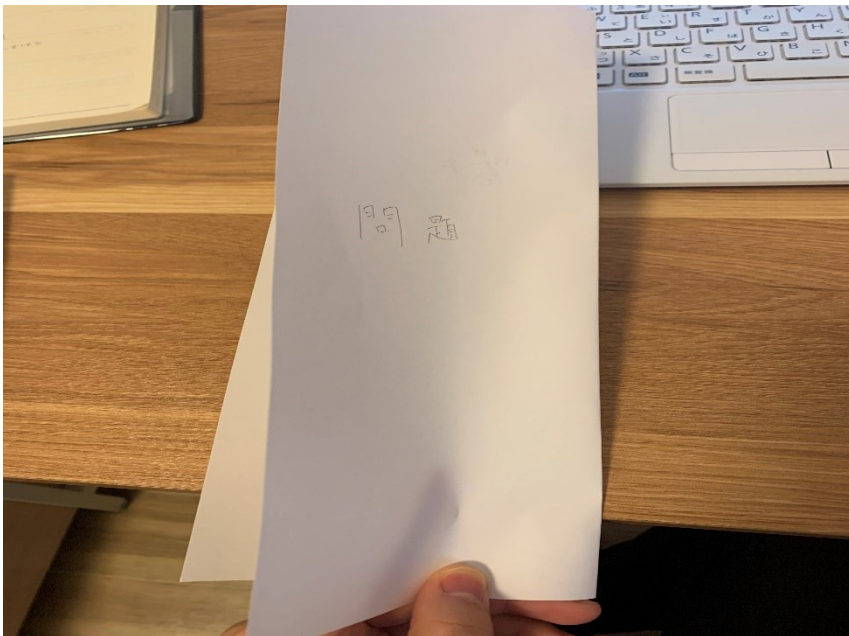
クイズを作ろうとすることで、何で？どうして？という問いかけが自然にできるようになります。

世界史は暗記だ！インプットだ！と行って、何度も参考書を読んでも、全然頭に入らないのは、受動的な勉強だからなのです。

クイズが作れそうだなと思ったら、参考書は一回閉じ、頭の中でクイズを作り、その答えを半分に折った紙に書いて下さい。



書いたら、その面の裏に問題を書き出します。



これで自分専用の問題集完成です。

単語カードに書いても良いです。持ち運びがすごく楽ですし、復習が苦
になりません。

読み終えた後は、少し脳を休ませてからクイズを解いてみて下さい。

このクイズは頻繁に解いて欲しいと思います。なぜならこれが定着の
鍵だからです。

読んだ日の夜に必ず思い出す作業をする

これは、暗記の助けにもなりますし、クイズと同様にあなたの成績アップの鍵ともなる重要なパートです。

一日何章読んでも良いですが、**読みっぱなしは時間を無駄にしたも同然です。**

読んだ内容をしっかりと血肉にするには、アウトプットが肝心なのです。

インプットはアウトプットをしないとやったことになりません。能動的になりましょう。

じゃあどんなアウトプットをするかといえば、読んだ日の夜に「**今日はどんなことを学んだかな**」と、読んだ内容を思い出し、親や兄弟に世界史のストーリーを簡単に説明してみてください。

友達に説明するつもりでも良いですし、自分の筋肉に教えてもいいし、動画をとって youtube にアップするのもあります。

とにかく、教えようとするのが肝心です。

一回やってみると分かりますが、びっくりするほど覚えていません。

思い出そうとすることは、結構苦しい、脳に負担がかかることなので
す。

脳は苦しんだ分だけ覚えようとし、記憶に残って、覚えやすくなりま
す。

覚えてない、悔しいという感情は、記憶にととても良い影響を及ぼすの
で、覚えていなくてもへこまなくて大丈夫です。

思い出そうとする作業が終わったら、しっかり確認してください。

教えようとすることで、能動的に読めますし、思い出せなかったことで、記憶に刻み込みやすくなります。

また、復習インターバルは、ピョートル・ウオズニアックが膨大なデータを元に作ったモノがベストです。

- 1 勉強から 1～2 日後
- 2 勉強から 1 週間後
- 3 勉強から 16 日後
- 4 勉強から 35 日後
- 5 勉強から 62 日後

大体、2 日後、1 週間後、2 週間後、一ヶ月後、2 ヶ月後のインターバル
ですね。

記憶した情報の量が 90 パーセントまで減ったタイミングで復習でき
るようになっています。

習慣になってくると、はやく思い出せるようになって快感ですし、結果
的に時短になっているので、効率が爆上がりします。

これと同時に自分で作ったクイズもやって下さいね。

次の日はテストをする

前日にやったことを覚えているかテストすることで、抜けを確認することが出来ます。

別冊のチェックテストを用いますが、無くても大丈夫です。

自分でつくったクイズか、薄っぺらい穴埋め問題集を買って代用します。

スピードマスター世界史問題集や、書き込み教科書詳説世界史 B あたりがオススメです。

これも、思い出そうとする際の、覚えてない、悔しいという感情を利用した、記憶の定着の方法です。

記憶の定着には、その事柄に何度も触れた方がいいとよく言われますが、それを勘違いして迷走する人もよくいます。

まとめノートをぼんやり眺めたりとかね。(私です)

何かを覚えるにはアウトプット、それも脳を苦しめたアウトプットが一番です。

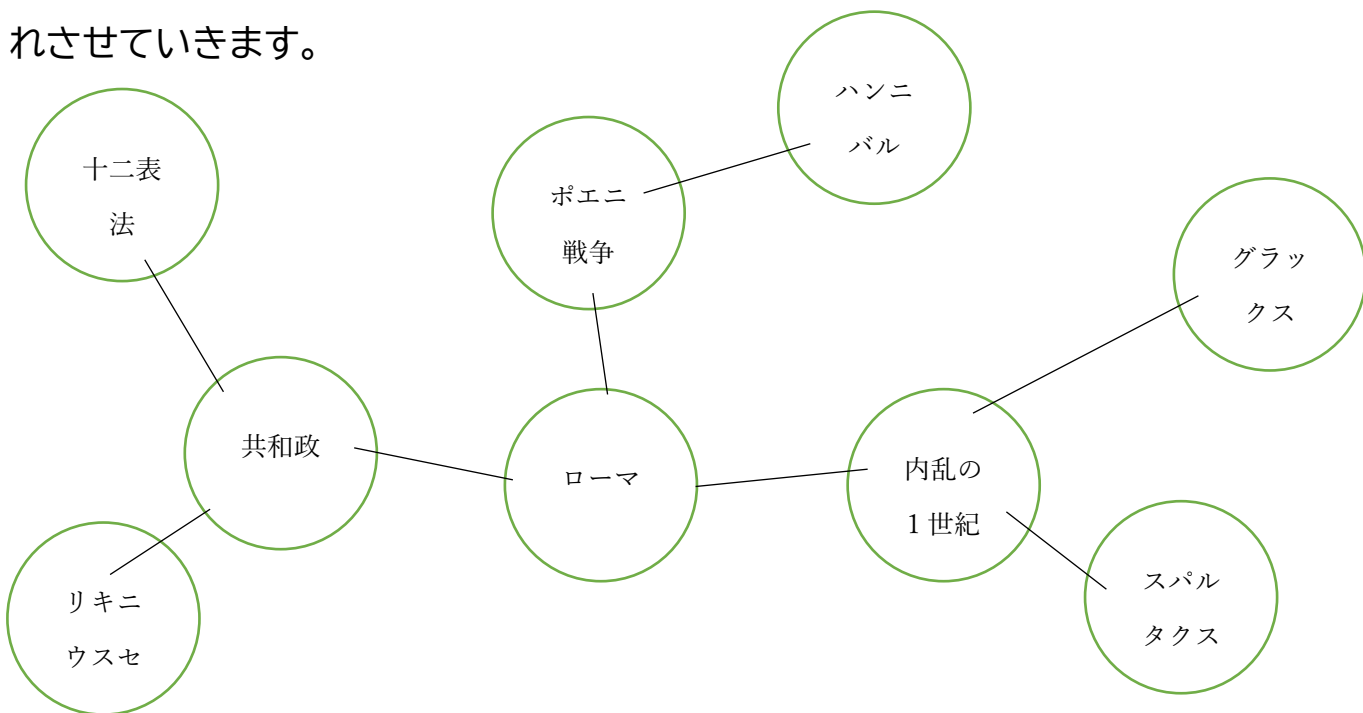
これが上手く取り入れられている人は、だらだらと長時間勉強したりしません。

マインドマップをつくる

自分でクイズやテストを作りづらいときは、マインドマップで知識を整理しましょう。

スマホのアプリでもいいですし、ノートでもいいです。

例えば、「ローマ」と中心に書いたとしたら、「共和政」「ポエニ戦争」「内乱の1世紀」「三頭政治」などと書いていき、そこからそれぞれ枝分かれさせていきます。



この作業を繰り返していくと、複数のテストを作れるわけです。

情報を固まりで覚えることができるので、問題を見た瞬間に関連した知識がふわっと浮ぶようになります。

論述問題もこれができるとすごく便利です。

周回にこだわらない

注意して欲しいのが「周」にとらわれないことです。この理解パートでは「話の理解」が目的です。

何度も繰り返すのは大切ですが「3周」やるのが目的になってしまうと、理解が不完全に終わってしまう可能性が大です。

全部吸収するまで使って下さい。

独り言を言いながら読む

読むという作業は、勉強しているようでそうでない、時間はかかるのにそんなに頭に入らないという効率の悪い作業です。

ここまででも紹介しているのは、いかに読むという作業を能動的にするかというテクニックです。

中でも独り言を言いながら読むというテクニックはとても効果が高いです。

ある実験では、思考を声に出しながら書くグループと、そうでないグループに分け、社会問題に関する小論文を書かせると、独り言を言っていたグループの方が成績が良く、集中力も高かったそうです。

また、自分の口から知識を発することで、知識が自分に絡みやすくなり、関連した知識が引き出されたり、イメージがしやすくなって、理解力も高まるのです。

世界史の参考書を読む場合、実況をするように読んでいくといいでしょう。

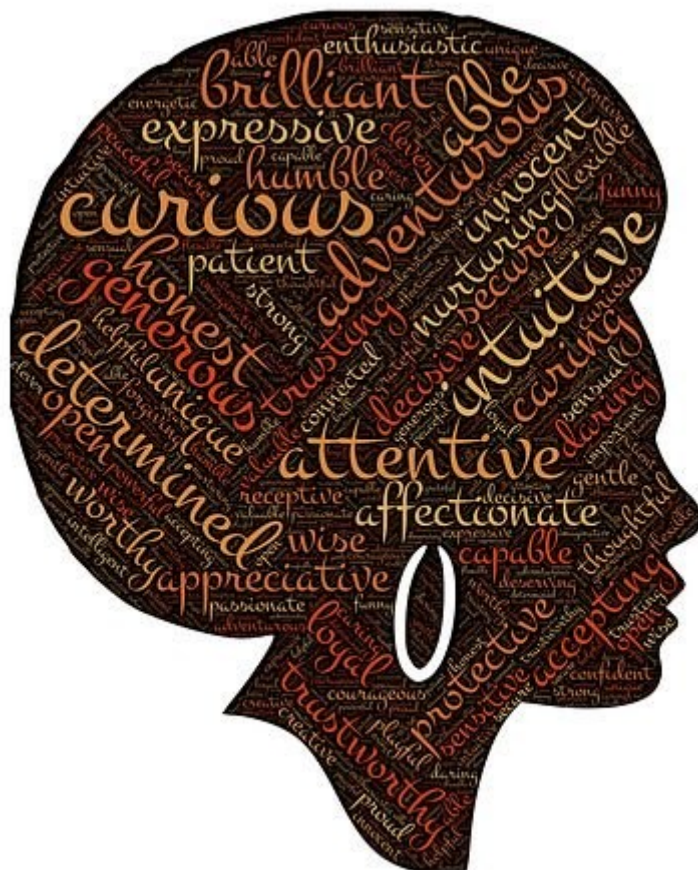
また、1 チャプター読み終わったあとに、「このチャプターの要点は？」
「分からない単語や分からない部分は？」などと、自問してみてください。

仕上げに、読み終わった直後に簡単に要約を口に出すと、その後また
思い出す作業をするときに、格段に楽になります。

「実況、自問、要約」

この3つをやってみて下さい。

理解を100%生かすための暗記



理解パートをしっかりやってくれたのなら、暗記パートは少し負担が減ります。

理解した事柄を身につけるための暗記ですが、**理解、復習がきちんと行われていれば、暗記の手助けにもなるからです。**

さて、この暗記パートでは、**問題集**を用います。最初は一問一答と呼ばれるものが良いですね。

これも本屋に行って、自分のレベルに合わせた、自分にやりやすそうなものを買って下さい。

学びはじめたばかりの人は特になるべく薄めのものを選びましょう。

問題を見て「行けそう！」と思ったら、分厚めでも結構ですが、挫折しやすいので注意です。

問題集の基本的な進め方としては、

解く→合っていたら○をつける→3 つつくまで繰り返す(3 つ以上でも OK)

というものです。ここで大事なのは**ストーリー**を思い出しながら解くことです。

3 つついた後も、さらっと確認ぐらいはするようにしてください。

書く？書かない？

解く際には、字を空に書きながら解いて下さい。

鉛筆で紙に書くと時間ロスになりますし、空に書くときと、紙に書くときの脳への定着の仕方はそんなに大差はありません。

答えは分かっている、字を間違えたら字を書けるように練習しますが、その際は、実際に紙に書いて、顕在化させます。

空に書くのは、曖昧になることが多いからです。特に複雑な感じは目に見えた方がいいので、漢字を覚えるときは紙と鉛筆を使いましょう。

ということで、

用語を覚える時→空に書く

字を覚える時→紙に書く

で行きましょう。

また、一冊目は、理解用の参考書と同時進行で行います。

完了してしまったところでも、クイズを解いたり、定期的にメンテナンスしたりして忘れないようにします。

やり終わってから 2 日後、2 週間後、月末というようなペースでやっていくといいでしょう。

自分の好きなペースを見つけて下さい。

一冊終えたら、ステップアップしていきます。

基本→応用→発展と段階を踏んでいくのが理想ですが、試験までの期間を考慮して、解く問題集を決めて下さい。

仕上げの定着とあぶり出し



shutterstock.com • 1053664751

暗記パートが終了したら、仕上げに入っていきます。使うのは、**センタ**
一の過去問、志望校の過去問、模試の過去問です。

しかし、過去問を解く際に

過去問を解く→答え合わせ

で終わっている人が多く本当にもったいないと感じています。しかも一回しかやらないという、、、

過去問は分からないところをあぶり出すために使います。問題を解く際は、確信を持って答えを導きます。

少しでも知識が怪しければマークをつけておいてください。

一問一答は完璧！と思っけていても、過去問をやってみると意外と「あれ？どうだったっけ？」となることが多いです。

解き終わったら、答え合わせ、そして解説を読みます。

この時にじっくりじっくりなぜこの問題はあやふやなのかというのを考えてください。

やっていると「東南アジアの整理ができていないな」とか「同年代史が苦手だな」「中国の制度史が苦手だな」というのが、分かってきます。

自分のウィークポイントが分かったら、それをなくす作業に入ります。

分からない部分を整理、理解し、覚えて解けるようにします。

つまり理解パートに戻るわけです。この理解パートでは教科書を使っても大丈夫です。参考書には載っていない事項もあったりするからです。

整理が足りていない場合は、ノートに自分で書き込んでいって下さい。

そして、クイズをつくり、そのノートを毎晩復習します。先ほど紹介した
思い出す作業ですね。

なにが書いてあったか思い出せるようになったら、その事項は頭の中
で整理整頓されているでしょう。

同年代史が苦手であれば、「**ヨコから見る世界史**」がオススメです。

同年代史が上手く整理されていますし、世界史の理解に必要なストーリーも含まれているので大変便利な一冊です。

年号は？

年号の暗記を必死にやる人がいますが、年号の暗記は補強程度にやっ
て下さい。もちろん年号は問題を解く際の手助けになります。

しかし、あんまり年号の暗記に勉強が偏りすぎると、よこのつながり、
縦のつながりが分からなくなります。

必死に年号を暗記しているのに、全然解けない、という最悪の状態に
陥るので注意が必要です。

論述がある場合は？

論述問題は、何が問われているかを見抜く力、何を書けばいいか選ぶ力、書く力の3つが必要です。

しかし、そんなに難しく考えなくても大丈夫です。

論述問題は、この最初の二つの力が付いていればあとは書く練習をするだけです。

対策をし始めるタイミングとしては、理解と暗記で、教科書に書いてあることを説明できるレベルまで達した時ぐらい。

短めの論述から練習できる参考書を使います。自己採点できるものがおすすめです。いちいち先生に見せに行くのは少し面倒です。

勉強の進め方

問題を見て、何が問われているか、何を書けばいいかを考え、まずは構成を書き出します。

例えば、十字軍の目的、経過と結果、影響を論述しなさい。

何が問われているかをまず考えます。問題を出す側は何を求めているか。そうですね。十字軍をしっかりと理解しているか、です。

問われていることが分かればあとは、

セルジューク朝

クレルモン公会議

聖地の奪還

第一回は…

などと知っていることを書き出していただけです。

注意して欲しいのは、答案をいきなり書き出さないことです。いきなり書き出すと絶対に問われていることを見失ったおかしい答案になります。

だから書き出す前に、答えになりそうなワードや文を書いて構成します。

頭で考えていることって結構ぼんやりしていますが、書き出してみるとスッキリして考えやすくなります。

もしも、何を書けばいいか分からないのならば**知識不足**なので、**整理、理解、暗記**に戻って勉強して下さい。

構成がしっかりできたら、一気に書いていきます。

「です。ます。」ではなく「である。」を使い、途中で急に「ですます」が出てこないように気をつけてください。

文章を書く際は、なるべく短い文で、主語と述語がはっきり分かるようにして下さい。何が書いてあるか分からないと減点されます。

答え合わせをし、自分に足りていない部分を見つけ出します。知識の補強や問題点の克服をし、それが終わったら、もう一度解きます。

こんな風に論述問題の練習を進めて、穴があれば知識を補強するというのを繰り返して下さい。

慣れてきたら、過去問に着手します。過去問を演習した後は、学校の先生に添削してもらいます。

添削は今まで気づかなかったことに気付けるので非常に有効です。

先生に頼みに行くのが苦手な人はオンラインで添削をしているサイトもあるのです、そちらを使って下さい。間違っても解きっぱなしは辞めましょう。

添削してもらったら何が欠けているのかをしっかりと把握して、それを克服(整理、理解、暗記)し、過去問をもう一度解きます。

どんなに血迷っても、**模範解答のまる覚え**はやめて下さい。

それしか解けない状態になりますし、試験に同じ問題は出ませんから。

これを繰り返していけばあなたは論述問題に強くなり、誰よりも楽しく解けるようになります。

問題を見たら、書くべきことがパーツとうかんでくるからです

いつからやる？

秋からがベストです。

夏休みが終わるまでは、基礎に徹し、理解、暗記に取り組んで下さい。

また、秋になっても、基礎がやわやわな人は焦らずに、基礎固めを行なって下さい。

一問一答問題集はほぼ完璧で、ストーリーが語れるという状態ならさきほど紹介した論述の勉強で十分に対策できます。

しかし、いきなり論述をやろうとするとペンが少しも動かないので結構ショックです。

私大志望

私大志望の人は、基礎ができたら、早めに取り組みましょう。

夏の終わりぐらいから始めれる人は始めて下さい。

センター試験が関係なく、当日の試験も 3 教科などと、1 教科の役割
が大きいですから、論述の質も高めないとはいけません。

論述問題は基礎が固まっていれば、練習すればするほど上手になります。
す。

論述対策をして、弱いところは教科書に戻って補強してを繰り返して
見て下さい。

私大受験は、科目が少ない分、敵も強いので、早めの論述対策で、他の
受験生と差をつけましょう。

国公立志望の人は、そこまで焦らなくても大丈夫です。

センター試験を受けなければならないし、二次試験の世界史の比重は、英語、国語よりは低いではありませんか？

ですから、まずは基礎に徹し、センター試験で点数を取れるようにしましょう。

なるべく英語、国語、数学に時間を回し、世界史の基礎を熟成させて下さい。

基礎が熟成されれば、センター試験も点数が取れます。

センター試験前でも、余裕があるのであれば、論述対策を始めていた
だいで結構です。

早めにやって損はありませんが、無理はしないで下さいね。

優先しなければいけない教科があるならば、そちらに時間を回してく
ださい。

センター試験の後でも、「書く」練習のみであれば、十分間に合いますよ。

世界史勉強のまとめ

ここまでストーリー暗記を軸に、参考書の読み方、授業の時のノートの取り方、復習へのつなげ方、暗記、仕上げの仕方、論述対策など紹介してきました。

次章では押さえておきたい世界史勉強のポイントをお伝えします。どの勉強にもあてはまる、本質を暴露していくので読み飛ばさずじっくり読んでください。

まずは同じ作業を 3 ヶ月続けてみて下さい。ここで大事なものは継続です。

メルマガ登録 1 週間で「これ本当に大丈夫ですか？ やっても全然伸びません」というコメントが来ました。

1 日どのくらいやったのか不明ですが、1 週間では、どの教科や分野でも伸びないですね。

「これをやる！」と決めて、それを一点集中してやります。「これもやりたい」と思った勉強には目をつむりましょう。



結局世界史の勉強において大切なのはなんなのか。

これ実は、**超重要**です。

これを知っておくと、他の教科の勉強にも役立ちます。

もったいぶってもしょうが無いので言ってしまうと、**単純化**と**視点の転換**です。

世界史の勉強のイメージである「暗記」はこの二つの補助的役割を担っているだけです。

単純化

単純化するとは、教科書で説明された事項を「**要はこういうこと**」に変換する作業です。

単純化は理解に直結します。

その前に、先ほどから理解が重要という話をしていますが、理解ってなんじゃという話ですよ。

理解しているとは、例えば、カリフってなに？と聞かれた時に、「ムハンマドの後継者でイスラーム教の権威だよ。」というふうに簡潔に答えられる状態のことです。

「十字軍ってなんで起こったの？」のような、流れや出来事も、要約して人に説明できるというのが理解です。

もうお気づきかもしれませんが、

「理解できている＝単純化できている」

という公式ができるんですよ。

教科書の目次、または索引のページを開いて、目に入ったものを説明
できますか？

もしも単純化できなければ、**理解**が足りていません。もちろん、用語
を覚えるというミクロな暗記も必要です。

しかし、世界史の勉強がそれだけになってしまうと、論述問題、説明問題に対応できずに頭打ちになってしまいます。

志望校の試験に論述問題、説明問題がなかったとしても、物事の繋がりがや国家間の関係を知っているか知っているかいないかだけで、用語の覚えやすさも雲泥の差になってしまいます。

理解パートで**アクティブラーニング**をしようと言ったのは、この単純化ができるようになって欲しいからなんです。

クイズや、思い出す練習は内容が理解できていないといけないですよ
ね。

この単純化ができるようになれば、復習回数を少ない時間で増やせま
す。単純化の大事さが分かっていただけましたか？

しかも数学や理科の理数系教科、国語、英語、人に話をする時にも役立
つコスパ最強の技術なんです。

例えば数学だったら、具体的な問題ばかり解けても意味がなくて、基本的な公式の運用が重要ですよね。

本番の試験では、問題集と同じ問題は出ないわけで、「要はこうだよ」という抽象的なことが分かっていると、どれだけ問題集をこなしたとしても解けない訳です。

枝や葉っぱを生やすことが重要なのではなく、木の幹をしっかり捉えておくことが肝なのです。

また国語や英語でも、読んだ文章を要約する問題が出ても、「要はこうだよ」という単純化ができていれば、ポイントをとらえた要約ができます。

さらに、人に話をする時も、伝えたいことがはっきりしているので、「結局なにがしたいの？」と言われずに話ができるのです。

単純化はどの教科にも応用可能だということが分かっていたければ、あなたの他の教科も伸びる可能性があります。

視点の転換



視点の転換は、仕上げのパートで使っています。単純化できて、しっかり説明できる人でも、じゃあこの制度史は？農業史は？と聞かれたら、口ごもっちゃうんですよね。

だから、仕上げのパートで問題演習をして頂くことで、こういう視点もあるのか、と気づき、異なった切り口で勉強を進められる訳です。

それに加えてもう一つ話したいことがあります。それは、問題を出す側の視点に立ってみるということです。

論述問題の対策のところでも言いましたが、大学側は何を答えて欲しいんだろうと考えることが答えを出す上で重要なんです。

暗記科目としての世界史はこの視点の転換を忘れがちです。

しかし、日頃から「これとこれの違いは問われそうだな」とか「ここ混乱しやすいから先生出してくるかな」とか、

思いながら勉強していると、論述問題だけでなく、一問一答のような問題形式の試験でも、答えやすくなるんです。

何が言いたいかというと、日々漫然と読んだり、アウトプットするのではなく、考えながら勉強して欲しいのです。

考えながらは疲れます。しかしこれは、濃密な勉強ができれば1日3時間でも合格するというようなことが言われる所以なんです。

読む系の参考書を読む時も、

この一周は内容を大体掴むために読もう、

この一周は繋がりを意識しよう

この一周はあやふやなところを重点的に読もう

この一周は制度を中心に追おう

この一周は違いを意識しよう

など、毎回視点を変えて目的を持って読んで下さい。

問題集でも同じです。そういう風に視点を変えて行くことによって、視野が広がります。

そこで最初の話に戻ってくるわけですが、視野が広がると、読む時に制度史や農業史にも注目できていくんです。

視野を広げるという意味で問題演習をしてもらうのですが、やっぱり気づかなければ「間違えちゃった」で終わってしまうんですよね。

「間違えちゃった。なんで間違えたんだろう。制度があんまり理解できていないな。」

「じゃあ、制度の移り変わりという視点でナビゲーターを読んでみよう。」ここまで考えて欲しいのです。

また、この視点という概念も他教科やビジネスなどに応用できます。

大学側は何を求めているか考えるというのは、大学受験全般に言えますし、問題文を正確に読み解いて、何を答えて欲しいか掴み取るというのは、答えを出す上での前提条件ですよね。

ビジネスにおいても、お客さんは何を求めているんだろうということを考えられないと、お金儲けできないわけです。

このように視点の転換は重要であり、視点の転換を癖づけるには、「何を求めているだろう」と考えることが重要なのです。

まずは問題演習で視点の転換に慣れて、その後で考えることを意識してみてください。

次章では各分野の攻略法を紹介していきます。詰まっている分野があるなら必見です

文化史

文化史は一番「丸覚え」が起きやすい分野です。しかし、丸覚えが防げれば、試験全体の1～2割の得点が手に入るので、コスパは良いと言えます。

コツとしては、絵画や建築だったらその作品や建物の写真と一緒に、文学だったら内容も一緒に覚えることがオススメです。

私がつくった「culuture20」というプログラムには、文化史が、作品や内容と覚えられるように設計されているので、自分で調べることが面倒な人は、私のプログラムでマスターしてしまいましょう。

イスラーム史

イスラーム史はややこしい歴史ランキング1位ですよね。これは教科書の書き方が100%悪いです。

しかし、イスラーム史も攻略法さえ分かれば、右往左往することはありません。

イスラーム史の攻略法としては、**各地域史を勉強してから、ヨコを繋げる**という順番です。「東南アジアマスター講座」でも同じ話をしていますが、この攻略法が一番効率が良いです。

各地域史というのは、イベリア、エジプト、イラン、中央アジア、アフガニスタン、アフリカに分けてそれぞれ学んでいくということ。

メルマガでプレゼントした語呂合わせ集に、それぞれの語呂合わせが載っていますし、私のブログにも各解説を載せているので、これもまた自分で整理するのが面倒な人はぜひぜひ活用してください。無駄な時間は省きましょう。

各国史をまとめて載せてあります。語呂合わせもぜひ覚えてください。

<https://kate.fun/isuramu/>

中国史

中国史は長いし漢字ばかりで苦手な人が多いですね。

中国の各王朝の勉強はしやすいですので、悩みとしては10世紀は中国でどんな王朝があった？と聞かれたときに「う～ん」となってしまいうことでしょう。

勉強の流れとしては、2段階あります。

1 中国史だけをタテで覚える

2 他の地域との関連、全体像を見て、ヨコを覚える

です。

中国史のポイントとしては、他の地域との関連をどれだけ把握しているか、いかに時代の流れを俯瞰できるかです。

ヨコの歴史もやらなくてはならないということが分かりますね。

しかし、いきなりヨコの歴史を覚えようとするとかパオーバーして勉強が進みませんので、

まずは、漢なら漢、明なら明で中国史だけをマスターしていきます。

王朝と王朝のつながり、各王朝の政治、経済、社会、文化をしっかりと勉強しましょう。

その段階が終わった時点で、点数はとれるようになっていますが、もう一越え。ヨコのつながりをおぼえていきます。

例えば、明の時代に銀が流通し出したのは、

ヨーロッパでは航海が流行り、その結果アメリカの鉱山を見つけて、そこからとれた銀がヨーロッパに流れ、さらにその銀で取引をし始めたからですね。

ヨーロッパにとって中国は良い取引相手だったので、中国にも銀が流通するようになったわけです。

このように、大国である中国は、世界国々に影響を与え、与えられている国です。

中国史をマスターするのに、このようなヨコのつながりは不可欠です。

じゃあ、どのようにおさえていくかというお話ですが、方法は2つです。

1つはまとめノートをつくって、地域別に出来事を書き出し、ヨコのつながりを自分でみつけていくことです。

自分で手を動かすので頭には入りやすいです。ただ、時間がかかりまくります。

2つめは「ヨコから見る世界史」でマスターする、です。

この本には、中国と他の地域の経済や文化の関連が分かりやすく書かれています。

ノートを作るよりも圧倒的に早く押さえられるのでストレスもかからず良いです。ただ分かりやすく理解しやすい分、復習をたくさんする必要があります。

私としては後者がオススメです。時間が省けますし、復習をしやすいする工夫さえすればいいので、圧倒的にメリットの方が大きいです。

ヨーロッパ史

世界史の教科書はヨーロッパがメインですし、ヨーロッパだけは結構詳しく書かれているので、押さえやすい分野だと思います。

その分ヨーロッパ史はちょっと捻った問題も出やすいので、出来事と出来事の**因果関係**をしっかりとおさえていくことが大切ですね。

例えば、マルティン・ルターが宗教改革を始めましたが、これはなぜか
というと、教会が免罪符を売って儲けていたから、腐敗していたからで
すね。

教会の腐敗→宗教改革

という因果関係があります。

ある日突然、ポツと事件が起こるわけではないので、「なぜ」「どのよう
に」を中心に出来事をおさえていきましょう。

近現代史になると、教科書は急に分かりづらくなるので、(第一次世界大戦あたりは特に。)ここは特に参考書や授業を活用しましょう。

東欧史、ラテンアメリカ史、アフリカ史(情報量が少ない分野)

東欧は、スラヴ人登場から始まって、ポーランド、ハンガリー、ルーマニアなど現代史に至るまで、教科書では「分かりにくい」の極みです。

分かりにくく書かれてしまうのは理由があって、説明するだけの情報がないことが原因なんです。

高校生が学ぶ内容じゃねえなってところは省かれて書かれるので、因果関係も見えません。

ぶつ切りで歴史を学ぶことになるのでこんがらがるといわけですね。

じゃあどうしたらいいか

東欧史は、2段階で勉強しましょう。

1. 世界史全体を学ぶときに一応一緒に勉強しておいて、分からなかった部分をチェック。
2. 分からなかった部分を中心に、東欧史だけをマスターする。できればノートも作ってしまう。マスターできたらヨコのつながり。

この2段階。ラテンアメリカ史、アフリカ史も同じやり方でやりましょう。この地域も情報量が少ないので、この方法で攻略できます。

1 まずはヨーロッパ史を中心に全体的に勉強することをおすすめします。その時に東欧史も理解できればそれでいいですし、分からなければ印をつけてほっときましょう。

参考書や授業を受けているときに、「あ、ここ東欧史だな」って思ったら、あとで分かるように印を付けておいてください。

後に東欧史だけを勉強するときに役に立ちます。

2 世界史の全体を把握した上で、東欧史だけをやります。印をつけておいたので、探す手間は省けます。

「縦から見る世界史」には各地域史が載っているので、それおを読むと理解がスムーズになります。(9章「東欧」の部分です。)

できればノートをつくり、他の国との関連を可視化しておくとう理解がグンと高まるのでオススメです。

ノートもつくれ、理解もできたら仕上げに一問一答問題集で問題を解きましょう。

問題があんまり載っていなければクイズをつくるのもオススメです。

スラヴ人の解説はこちらでしています。

<https://kate.fun/norumann-suravu/#i-5>

ロシア史、アメリカ史

ロシア史、アメリカ史は押さえ方が似ているのでまとめて紹介しています。

この2つの地域の特徴としては、有力なリーダーが次々と変わっていき、さらにそれぞれの人物がなにをしたかをしっかり押さえなければなりません。

ここでも登場、「縦から見る世界史」では、各国史が載っていて、アメリカもロシアも詳しく書いてあるので、理解、整理に役立ちます。

これを読んで理解し、大統領、皇帝が何をしたか、どうしてそうなったか、その後どのようなことが起こったかをおさえていきます。

自分でノートを作っても良いですし、直接本に書き込んでいくのも良いです。

とにかく因果関係を捉え、自分の中で整理をしていって下さい。

また、復習することも忘れずに。問題集をやるなり、クイズをつくるなりしましょう。

インド史

インド史は教科書にも詳しく書かれているので、割と把握しやすい分野
だと思います。

ただ、古代から現代まで、長い歴史があるので、中国史のように、**タテ**
を学んだらヨコの把握に徹底しましょう。

朝鮮史

朝鮮史は中国と日本との関係を見ながら押さえていくのがオススメです。

現代史はほとんど日本との関係なので、どのようにして日本に支配されていったかを中心におさえていくと良いです。

それまでの朝鮮史に関しては、中国との関係を各王朝の特徴をしっかりと学習しましょう。

ちなみにここだけの話、首都と文化を押さえるだけでめっちゃ点がとれるので、それ中心に覚えましょう。

騎馬遊牧民史

最後に、北アジア史。騎馬遊牧民の国家の変遷ですね。

これも教科書では説明が断片的で、いきなり「オアシス」とかでてくるので、こんがらがる人が多いです。

ここでも教科書を読みながら、一人で唸っているよりも、「縦から見る世界史」で一気に押さえてしまうのがオススメです。

この本のオススメしかしてないですね(笑)

最初は分かりにくくても、だんだん中国にちよっかい出したり出されたり
りの関係を持つ国家だと分かってくるので、そう構えずに勉強しましよ
う。

また、彼らはトルコにも進出してきた、イスラーム史にも影響してくる
ので、早めに押さえておくと非常に楽です。

まとめ

いかがでしたか？各国史の攻略法の紹介でした。

世界史が分からないとぼんやり悩むのではなく、模試を分析して「ここが分かっていない」ということを突き止めて、そこだけ集中的に勉強しましょう。

全体的に世界史がまだ分かっていないのなら、まだ基本的な勉強が不足している状態です。前章に戻ってひたすらに勉強しましょう。

おわりに

いやあ長かったですね。お疲れ様でした。

でも、読み応えやまともな感じはありましたよね(笑)

このレポートで紹介したことは今から使えます。明日からは、勉強に役立つメルマガを発行していきますので、これからお付き合いお願いいたしますね。

それでは。

